

情報電子工学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	情報処理学会・第8回アクセシビリティ研究会
演題名	静的シミュレータで心理的距離の自己認知を観察しよう
発表者	<u>塩野目剛亮</u>
内容	<p>筆者らはこれまで、職場うつ要因の1つとして社会的孤立に着目し、職場うつ予防のための人間関係可視化シミュレータの開発を進めてきた。これまで、人間関係、および個人同士のやりとりを可視化するため、心理的距離に基づく個人の配置や、やりとりの特性を反映したコミュニケーションモデルについて検討してきた。心理的距離地図（Psychological Distance Map; PDM）は親しさの程度や対面頻度、連絡頻度を反映すると言われており、人間関係を可視化する際の表現の一形態としての利用が期待できる。これを利用した自己認知の把握と振り返りは自分自身の他者との関わりを客観的に捉えるために有効であると考えられる。本発表では静的シミュレータを使用し、任意の集団とそこに所属する個人を配置し、個人間の距離や関係性を表す統計情報をもとに、親しい人とそうでない人、他者との距離が大きい人などの情報を提示し、自身がどのように自己、他者、集団をとらえているかを体験、共有するワークショップを実施した。</p>